

# 外食中食 調査レポート

## パン類の喫食実態 —東西の比較—

### 朝食マーケットに違いあり！？

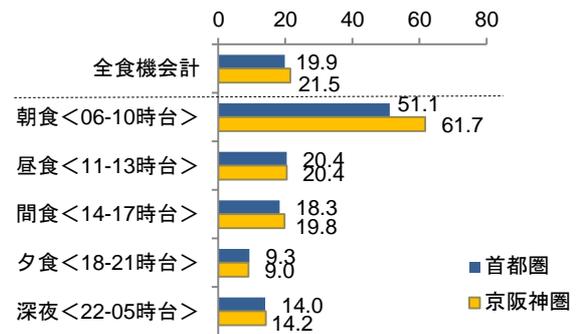
- 外食・中食の5回中1回はパン類を喫食
- 朝食では、京阪神でのパン類出現率が高い



【東京、2012年9月28日】“食の欧米化”と言われて久しいが、家庭内食だけでなく、外食・中食シーンにおいても“欧米化”の代表格であるパン類の出現率は高い。では、日本におけるパン類(注1)の喫食には、どのような特徴がみられるのだろうか。エヌピーディー・ジャパン(株)が提供する外食中食市場情報サービス『CREST\*』から探ってみる。

図表1は、全食機会および、各食機会における外食・中食100食機会あたりのパン類の出現率である。全食機会をみると、首都圏で19.9%、京阪神圏で21.5%と、やや京阪神圏での出現率が高い。両地域ともに5回中1回はパン食が登場している。次に、食機会別にみると、両地域共に「朝食<6-10時台>」での出現率が高く、首都圏では51.1%、京阪神圏では61.7%と、特に京阪神での出現率が高い。他の時間帯ではほとんど出現率が変わらないことから、パン類の喫食は特に朝食時間帯において地域間の差があることが分かる。

【図表1】 時間帯別パン類出現率(%)  
首都圏 vs 京阪神圏



エヌピーディー・ジャパン(株) CREST より  
(2011年7月-2012年6月度累計)

では、朝食時間帯<6-10時台>に喫食されるパンの種類に地域間の差があるのだろうか。図表2は外食・中食の朝食100食機会あたりの出現率ランキングから、パンメニューを抜粋したものである。これによると、上位メニューはいずれも京阪神圏での出現率が高い。特に「菓子パン・ドーナツ」は京阪神圏での出現率が6ポイントも高いことは注目すべきであろう(首都圏:17.8%、京阪神圏:23.8%)。また、「食パン・トースト」においても同様に京阪神圏での出現率の高さが特徴だ(地域間の差:3.1ポイント)。一方、下位メニュー(「ロールパン・クロワッサン」や「ホットドッグ・ナンタコス」)は、若干ではあるが、首都圏での出現率が高くなっている。

【図表2】 外食・中食 朝食時間帯  
メニュー出現率(パン類抜粋)(%)

パンメニュー出現率	首都圏	京阪神圏
菓子パン・ドーナツ(注2)	17.8	23.8
サンドイッチ・パニーニ	8.5	9.3
調理パン(注2)	8.4	8.5
食パン・トースト	7.4	10.5
ハンバーガー・ライスバーガー	5.9	7.0
ロールパン・クロワッサン	5.5	5.0
ホットドッグ・ナンタコス	1.1	0.9

エヌピーディー・ジャパン(株) CREST より  
(2011年7月-2012年6月度累計)

東西の食文化の違いは多々言われているが、朝食においては、京阪神圏でのパン類喫食率がより強い傾向にある。また、東西ともに、パンメニューの出現率順位に大きな違いはみられないが、各メニューごとの出現率を東西比較すると、地域差があることが分かる。さらに、属性や業態の分析を加えることで、各地域に基づくパン市場における消費者購買実態を、より明確に把握することが出来るであろう。

-----  
(注1)

パン類とは、以下メニューを含んだものである。  
ロールパン・クロワッサンなど／食パン・トースト／サンドイッチ・パニーニ／菓子パン・ドーナツ／調理パン／ハンバーガー・ライスバーガー／ホットドッグ・ナンタコス

(注2)

菓子パン・ドーナツには、クリームパン、あんぱんなどの甘系のパンが含まれる。調理パンには、カレーパン、ソーセージパンなどのおかず系のパンが含まれる。

-----  
CRESTとは

約 20,000 人／月のサンプル数を誇る、2003 年より開始したサービスであり、外食・中食市場において‘いつ、誰が、どこで、何を、どのように食べ、どの程度満足したか’ という情報を 1 年 365 日、直接消費者から収集し、データベース化した情報サービスです。

お問い合わせ

エヌピーディー・ジャパン株式会社  
セールス&マーケティング部 小野 雄大  
Email; [npdjapan.info@npd.com](mailto:npdjapan.info@npd.com)

〒108-0074  
東京都港区高輪 3-23-17 品川センタービル 13F  
T: 03-5798-7663 / F: 03-5798-7665